

平成 21 度大磯町教育委員会第 1 回臨時会会議録

1. 日 時 平成 21 年 11 月 24 日 (火)
開会時間 午後 4 時 00 分
閉会時間 午後 5 時 40 分
2. 場 所 大磯町役場本庁舎 4 階第 1 会議室
3. 出席者 大 橋 伸 明 委員長
岩 井 喜久枝 委員長職務代理者
石 塚 洋 委員
清 田 義 弘 委員
福 島 睦 恵 教育長
二挺木 洋 二 子ども育成課長
林 正 人 子ども育成課主幹
大 隅 則 久 子ども育成課子育て支援室長
和 田 勝 巳 生涯学習課長
山 口 章 子 生涯学習課図書館主幹
佐 川 和 裕 生涯学習課郷土資料館主幹
山 口 信 彦 子ども育成課主査
片 野 剛 志 子ども育成課主事
4. 傍聴者 0 名
5. 付議事項
議案第 22 号 大磯町教育委員会の点検・評価について
6. 協議事項
協議事項第 1 号 平成 22 年度教育委員会当初予算要求に係る協議について
7. その他

(開 会)

出席委員が 5 名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項の規定により定例会は成立し、大磯町教育委員会会議規則第 14 条及び第 19 条の規定により傍聴を許可します。

議案第 22 号 大磯町教育委員会の点検・評価について

書記が議案を朗読し、教育長から提案理由の説明を行った。

子ども育成課主幹) ただいま教育長からの提案理由にもございましたように、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、その法律第 27 条に基づき、昨年度もその執行状況について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作

成し、これを議会に提出し、公表を行いました。今年度も対象年度を平成 20 年度に定め、議会への提出時期等を決定し、点検・評価を実施してまいりました。既に、今回の報告書作成にあたり、教育委員の皆様には、自己評価及び事務局の執理事業の評価等をお願いし、素案の段階で何度かご意見等をいただいております。また、昨年度は実施できなかった外部評価も取り入れ、その経過も報告させていただいております。今回、その報告書が完成いたしましたので、改めまして、簡単に報告書のページ構成をご説明させていただきます。それでは、資料をご覧ください。まず、対象の年度でございますが、先程も申しましたように、今回は平成 20 年度を対象としてございます。表紙をめくっていただきますと、1 ページが目次となっております。2・3 ページは昨年とほぼ同様でございます。4 ページの点検・評価の流れでございますが、3 段目のチェック評価のところ外部評価を追加してございます。次に、5 ページからが、実際に点検評価をまとめたものを記載してございます。点検評価につきましては、2 部構成となっております。1 つは、教育委員会の活動そのものの点検評価でございます。これにつきましては、現在行っている教育委員会議をはじめ、1 年間の様々な活動を点検し、その評価を行っております。23 ページ以降が実際の点検評価となっております。今年度はこの部分を内部評価と位置付け、それぞれの活動の目的といくつかの評価項目を定め自己評価をしていただきました。次の 26 ページから 29 ページまでが外部評価でございます。外部評価の概要にも記載がありますが、内部評価の妥当性とよりよい評価活動のための指導助言という形で外部評価をお願いしました。次に、30 ページからが、もう一つの点検評価、教育委員会の基本方針に沿って実施された事務事業を各課で点検評価を行ったものでございます。これにつきましては、各課で重要課題と捉えた事業を課ごとに内部評価を実施し、それに教育委員からの評価を加えた形でまとめてございます。これは昨年と同様でございます。最後に、42 ページからは、資料編として、関係法令や教育委員会議事録の記載ホームページアドレス、また、平成 20 年度の教育委員会基本方針等を載せてございます。以上が、報告書の構成でございますが、冒頭申しましたように、今回、この報告書が完成したことに伴い、改めて、議会への提出と公表についてご了解をいただきたく、付議したものでございます。ご審議の上、ご了解いただけますようお願い申し上げます。

(質疑応答)

石塚委員) 平成 20 年度につきましては、外部評価が新たに加わったということで、既に資料を何回も見させていただいております。自己評価というのは本音で表現できないところもありますので、第三者の目から見るという意味では外部評価を加えていただいたことは良かったと思います。厳しいところもありますけれども、納得の行く項目がありますので外部評価のご意見は町民の声とも同じだと判断して真摯に受けてとめて一刻も早く改善をしていきたいと思しました。

委員長) 質疑を打ち切り、討論を省略し採決に入ります。議案第 22 号 大磯町教育委員会の点検・評価については現案のとおりでご異議ありませんでしょうか。

各委員) 異議なし。

委員長) 異議なしの声がありましたので、議案第 22 号 大磯町教育委員会の点検・評価については原案どおり承認いたします。

協議事項第1号 平成22年度教育委員会当初予算要求に係る協議について

子ども育成課長) 冒頭、私の方から平成22年度当初予算編成方針ということで財政課から出ておりますので概要について説明させていただきます。予算編成方針につきましては、毎年予算編成をするにあたり財政収支の見込みですとか、重要政策というのが示されます。今年度につきましても1ページをご覧ください。前半部分につきましては、世界的なもの、全国的なものということで、中段、本町においてもというところから県もそうなんですけれども各市町村も法人税関係の税が落ち込んでいるということで、大磯町は幸か不幸か会社関係での影響はそれほどないというものの働いている方の個人住民税については、影響があるだろうと予測されているところが示されてございます。それと後もう一点、政権交代で国等の交付金が流動的でございます不透明であるということで具体的には、町づくり交付金というものがございましてけれども、都市整備の関係で大磯町も大きなものを貰っていますけれども、その辺についての必要性も議論されております。下の表につきましては、平成22年度の見込み、町税につきましてはもう少し厳しいという予測も出てございます。この資料では全体的な歳入は76億2,500万円ということで歳出については、今年度の事業を継続的に行った場合ということで書かれてございます。あとはこの中で普通建設事業ということで歳出の真中にございましてけれども、9億5,700万円。これについては、総合計画事業を計画どおりやるとこれくらい掛かるということが示されてございまして、総合計が84億1,700万円ということで、このまま予定事業をやっていくには歳入はこれだけしかないの、収支としては約8億円足りないといった表でございまして。既存事業につきましても見直しをしていけないといけないということが財政課から示されてございます。2ページにつきましては政策的なもので、今年度の中で環境、観光、教育の3Kを重点項目ということで、「エコの町 大磯」を目指してやっていくということでございまして。この中で観光につきましては、教育委員会にもある程度関係がございまして総合計画にも書かれているのですが大磯の歴史的・文化的資源を活用しながらやっていくということで、文化的遺産ということで教育委員会にも関係がございまして。教育については、この文言を読みますと義務教育というよりは小さな子どもから高齢者まで生涯学習という観点ということで示されてございまして。スポーツの関係が今年から町部局にいきましたけれども、ある程度、教育的な分野としてとらえ健康増進を含んだ中でやる必要があると書かれてございまして。基本方針ですけれども、昨年と同様に既存事業の検証見直し、優先順位の精査、歳入におきましては受益者負担ですとか、国県制度の情報収集、歳出においては経常経費については枠内配分、3ページになりますけれども、歳出の4番、投資的事業については総合計画実施事業のみであると示されてございまして。新規の計画をやっていくにあたっては、総合計画の中で手を挙げていかないと認めてもらえないということでございまして。今後のスケジュールにつきましては、財政課ヒヤリング、理事者ヒヤリングが年内に行われまして、来年の1月7日にまとめたいということで財政課から通知が出てございまして。今日、報告させていただきますので、年内に査定が出てくると思いますので、復活を踏まえて1月早々には固まってしまう形ですので、1月定例会で予算要求の議案を予定しておりますのでよろしくお願いたします。

石塚委員) 22年度見込みの84億1,700万円というのは今日現在、各課からの申請を合計するとこの額になるということですか。

子ども育成課長) この84億1,700万円の支出は、平成21年度にやっている事業に新規事業なしで、これに総合計画に載っている事業を加えたものです。来年度の新規事業があるとその差がどんどん広がっていくことになります。近々の状況ではこの差が約10億ということでございます。

子育て支援室長) 子育て支援室関係の予算要求につきまして説明させていただきます。児童福祉総務費といたしまして要求額が172,499,000円、前年度予算額が145,104,000円ということで比較をして27,395,000円の増となっております。主な事業の要求内訳といたしましては、「4.平成22年度に開設する子育て支援総合センターの事業運営・ファミリーサポートセンター事業」に関する経費を載せさせていただいております。今までは世代交流センターにおいて社会福祉法人へ事業委託しておりましたが、完成後は直営で実施するという事で計上させていただいております。社会教育費で持っていた放課後子ども教室を今まで学童保育を扱っていた事業と合わせまして1つにまとめてございます。児童措置費の要求額が191,131,000円で前年度予算額が185,101,000円ということで比較をして6,030,000円の増となっております。内容的には児童手当の内容です。今後の法整備の状況によっては、子ども手当と統合される可能性もあります。続きまして保育園費になります。要求額が318,852,000円で前年度予算額が289,958,000円ということで比較をして28,894,000円の増となっております。内容としましては、国府保育園の運営費、民間保育所の入所者に対する運営費の委託及び補助、町外の保育所の入所者に対する運営費の委託及び補助等という内容になってございます。今年度、待機児童が増えている関係で「5.保育所の待機児童解消のため、町内民間保育所の増改築を行い入所定員の拡大を図る、改修費に係る補助金」を新たに計上してございます。児童福祉施設費の要求額が5,719,000円で前年度予算額が100,000,000円ということで比較をして94,281,000円の減となっております。こちらは平成22年度に開設する子育て支援センターの維持管理が主な経費となっております。前年度は建設経費がありましたので今年度は減となっております。幼稚園費の要求額が170,502,000円で前年度予算額が538,779,000円ということで比較をして368,277,000円の減となっております。こちらは町立幼稚園4園の運営、維持管理に関する経費、私立幼稚園に関する就学援助費となっております。昨年度は月京幼稚園の建設費がありましたので減となっております。社会教育費の要求額が0円で前年度予算額が1,423,000円ということで比較をして1,423,000円の減となっております。先程説明いたしましたとおり放課後子ども教室に係る経費につきまして、児童福祉総務費に統合した関係で要求額が0円となっております。子育て支援室関係の計といたしましては要求額が858,703,000円、前年度予算額が1,260,365,000円ということで401,662,000円の減額になってございます。

子ども育成課主幹) 子ども育成課の22年度予算要求につきましてご説明いたします。まず、教育総務費でございます。要求額が171,458,000円で前年度比で24,252,000円の減となっております。減額は主に人件費でございます。主な事業内容でございますが、丸が付いているところが新規事業となっております。それ以外のところで主要なものについてご説明いたします。「5.支援を必要とする園児・児童・生徒の教育活動の推進のため」、教育支援員を配置するという事で昨年引き続き、教育支援員という形で幼小中に配置するもので

ございます。現在のところ小学校に15名、中学校に4名、幼稚園に16名の教育支援員を配置する形で予算要求をしております。7、8は教育研究所事業ですが、3つあった事業を次年度は1つの事業にまとめまして「教育研究所維持管理運営事業」といった形でまとめさせていただいております。事業内容につきましては、今年度とほぼ同様の形で予算要求しております。「9、児童用図書」の購入などにより、学校図書館の管理運営を行うということで学校図書館事業を今年度から新たに消耗品等を予算計上したものでございます。次年度は図書の購入費に加え、コンピュータによる図書の管理を行うためのシステムの導入と図書が増えたことによる書架等の購入費も予算要求しております。最後の10の新規事業でございますが今年度の4月に臨時議会の中でも補正であげさせていただいた高等学校等への就学が困難な者への補助制度ですけれども、国から来年度につきましては、高校の無償化というのがでてございますので私立学校の高等学校を中心に次年度は予算要求していきたいと思っております。次に小学校費でございます。要求額が157,734,000円で前年度比で29,094,000円の増となっております。この中で「4、1学年を35人学級編成」にするため、非常勤講師を配置するというので今年度、大磯小学校の1年生にこれを適応しております。通常標準法でいくところの1学級40人学級編成をおこないますと小学校1年生でございますと40人ぎりぎりの人数になってしまうのを防ぐためにそういう学級編成になりそうな場合に1学級増やして、担任外の教員を充てその後補充という形で非常勤講師を配置していましたが次年度、現大磯小学校の1年生が2年生になったところで、この1名を引き続き配置するのと同時に次年度、現在のところ予定しております両小学校の1年生もこの学級編成をたぶん導入することとなりますので合計3名の非常勤講師を配置するものでございます。それと「11、教職員用コンピュータを借上げ」ということで中学校費にも入っておりますが教職員の公務用のコンピュータの借り上げとLAN工事等の予算要求をおこなっております。12、13、14につきましては工事関係でございます。23年度が工事ということで国府小学校のプール、大磯小学校のグラウンド、国府小学校の校舎の改修工事の設計委託料を要求しております。3ページに移りまして中学校費でございます。要求額が62,535,000円で前年度比で136,509,000円の減となっております。減額の主な理由は、今年度、国府中学校の耐震改修及び大規模改修工事の費用が次年度は必要無くなったためにその分が減額になったものでございます。この中で先程、小学校費にも出てきた「8、教職員用コンピュータを借上げ」、9、10が工事関係でございますが、「9、国府中学校のグラウンド整備」ということで設計委託費の要求をしております。「10、大磯中学校の東側の防球フェンス」につきましてはただいま西湘バイパスの工事をしてございますので東側のフェンスが整備される予定なのですが、高さで東側のもともとあったフェンスが低いということでフェンスの設置の工事の予算要求となります。総額といたしまして要求額が391,727,000円、昨年度比で131,667,000円の減額となっております。

生涯学習課長) 続きまして生涯学習課関係の内容につきまして説明させていただきます。4ページにまいりまして社会教育総務費に関する内容でございます。要求額の総額といたしましては22,872,000円で昨年度に比しまして1,703,000円の増となっております。増となりました理由でございますが、各種講座の充実を図るため生涯学習関係の事業の充実を図っております。委託料、臨時職員の賃金などを増として考えておりまして、生涯学習館に係る利用日の拡充に関

する経費として増額要望をしてございます。最後の 12 番になりますが、老朽化した生涯学習課専用車を更新するという事で総額 1,703,000 円の増額となっております。続きまして 5 ページ図書館についてですが、まず、最初に労働費となっておりますが、こちらにつきましては、緊急雇用の関係でふるさと雇用再生特別基金を活用した図書館本館の窓口等の業務委託に関する費用となっております。本年 4 月に臨時議会で補正をご承認いただきまして、引続き来年度、図書館の窓口業務を委託するための費用として 28,000,000 万円を要求してございます。その下にまいりまして社会教育費の図書館費でございまして、要求総額は 79,297,000 円で昨年と比べますと 3,341,000 円の減となっております。減となりました大きな理由といたしまして、町史編さん作業の終了に伴います職員人件費の減、また、窓口業務の委託化に伴います臨時職員賃金の減が大きな理由となっております。その他には施設の良好な維持管理を行うための施設改修、平成 21 年度に県の次期読書活動計画が策定されました。本町の子ども読書活動推進計画の見直しに入ってまいりたいと考えております。本年 3 月に更新を予定しておりますコンピュータシステムを、来年度本格稼働してまいりますので、利便性の向上を図っていききたいと考えております。更に本年度より、町史編さん作業の終了にともない、町史資料保存活用事業といたしまして事業をスタートしてございますので、来年度におきましても歴史的資料の保存活用を図ってまいりたいと考えております。9 番につきましては、新規で予算計上させていただきました、25 年が経過しました図書館につきましても老朽化が進んでおりますので、実施設計を行うとともに応急的な修繕を進めていきたいということで、増減を含めまして来年度予算は 3,341,000 円の減でございまして。続きまして 6 ページの郷土資料館関係でございまして。要求額の総額につきましても 52,399,000 円、比較といたしまして 7,488,000 円の増となっております。増額となりました主な理由といたしまして施設の修繕、こちらの館も 20 年を迎えてございますので、施設の改修を行い隔年で実施をしてございます収蔵資料等の薫蒸に係る費用を予算として計上してございます。7 番、8 番につきましては、7 番の郷土資料館の改修につきましても、開館 20 年を経過してございますので旧吉田邸の整備、県立城山公園の区域拡大に伴いまして、郷土資料館全体のリニューアルを実施するため、基本設計をおこなう経費といたしまして予算計上いたしました。また、8 番の郷土資料館の公用車の購入につきましても公用車が老朽化してございますので、新たな公用車の購入ということで予算計上させていただきました総額 7,488,000 円の増となっております。

(質疑応答)

石塚委員) 質問の前に提案ですが、今、各課から説明いただきましたが、1つ1つに区切って協議したらどうかと思います。

委員長) そうですね。そのような形で行いますか。

各委員) 異議なし。

石塚委員) 子育て支援室について質問いたします。今年度から子育て部門が教育委員会に組織替えがありました。その中で町長が常々言われてきた 3K の中の 1 つとして「教育が非常に重要だ。義務教育、就学前の幼児教育、どちらも重要である。」という認識に立っていただいているということは非常に有り難い事と思います。質問は室長にです。組織上一緒になって、大磯町としても画期的なことだろうと思います。国は文部科学省と厚生労働省に縦割りに分かれており

ます。見えない壁は存在すると思います。この壁を低くして就学前の幼児教育、義務教育については、生涯学習も含めて一貫した教育に力を入れる町、大磯というのは非常にユニークな町だと第三者からも言われます。そこで室長は予算編成にあたって組織上一緒になって良かったかどうかを、私は心配するところです。教育委員会に入って予算編成がしづらくなったりとか全体的に教育委員会が厳しいので予算枠が取りづらかったかどうかは1つと、2つ目は特に幼稚園の臨時の先生の比率が高いような気がします。幼稚園の訪問をしても臨時の先生方が正規の先生方と同じ様に活動、活躍をしていただきます。臨時の先生方の手当が十分なのか心配です。お金だけではないと思いますが、どの程度考慮されているのか、考えを聞かせて頂きたい。

子育て支援室長) 予算の要求の面ではこれから査定、ヒヤリングとなっていきますが、予算の要求等については、それほど支障や影響はないと思います。先生ということで保育園と幼稚園が一緒に今回なっていますので、事業を見渡す上で上手く連携が取れる場面があると考えています。ただ逆に今までは母子保健と一緒にだったのが逆に離れたということがあります。しかし元が同じ部署でしていたので連携は図りやすいですし、特別支援の必要な子どもと関係のある部署とここ数年連携が取れるようになってきたと思っていたのですが、ここでさらに取りやすくなったと感じています。それとあと臨時の先生の件ですが保育園と幼稚園の臨時の先生、支援員さんの新たな募集、あと辞められた方の募集についてもかなり集めにくい状況になっています。それは賃金等の影響もあると思いますが、良い先生が他の部署に行ってしまうことは、幼稚園の先生も保育園の先生も専門職ですので、待遇が良い方に行ってしまうことは止むを得ないことだと思います。平成21年度よりは日給にして1,000円上がったということでその辺をどのように考えていくかだと思います。

清田委員) 今回こういう予算を決めましたけれども是非、町部局との交渉に頑張っていたらと思います。幼児教育というのは小学校に入るまでの間の大事な過程です。予算が3Kと言いながら下がっている訳ですけども、お金に代えられない大事さ、将来にとって大事な時期ですので頑張っていたらと思います。

委員長) 小学校の教育に繋がっていきますので是非頑張ってもらいたいと思います。

石塚委員) 社会教育費の放課後子ども教室ですが、今年度、両小学校を訪問しても放課後子ども教室がかなり定着してきたという感じがします。是非これから拡大して行っていただきたいと思います。ボランティアの方が集まりにくいと聞いたのですが、やはり集まりにくいのでしょうか。ボランティアの方々の人数は非常に重要だと思います。これから子ども達の人数が増えていくとそれなりに監視の目が必要になると思います。これからボランティアの人の数をどう確保していきますか。

子育て支援室長) 放課後子ども教室は、週1回やっています。その中でボランティアさんの募集を掛けていますが、なかなか集まらない状態でございます。その中で今後、事業を拡大していくことが必要となります。放課後子ども教室のボランティアさんに対しても事業の検証・確認等がなかなかできていなかった部分がありますので、今年度中にもう一度そこら辺のお話を聞きながら考えていきたいと思っています。

石塚委員) 1つ提案ですが、ボランティアをやっていただくきっかけを作ることが必要だと思います。その方法として私はまだ日が浅いのですが、先日太極拳で「大磯町スポーツフェスティバル」に初参加しました。会員の総数は110名と聞き

ました。その中で放課後子ども教室を各小学校でやっているという話をすると「子どもと遊びたいなあ」と言う人が結構いるんです。放課後子ども教室におじいさんが参加して良いのという感じなので、まだまだやっていること自体が浸透していない、知れ渡っていないような気がします。今後、広報活動をどんな風にしたら良いのかというのに知恵を絞ったら随分違うと思います。

子育て支援室長) いろいろ手段がありますので、今までのことを検証していかなければいけないと思いますので参考にさせていただきたいと思います。

委員長) 続きまして子ども育成課に移ります。

清田委員) 小学校も中学校も先生方にコンピュータを昨年度もお願いしましたが結局ダメでした。全部とは言わず少しでも導入していただけるとありがたいと思います。LANの工事は大変だと思いますけれども次年度それが使えますからLAN工事だけでもしていただければ、コンピュータをつなぐだけですのでそんな形でできればと思います。

子ども育成課主幹) 今回の要求は小学校、中学校の教職員の数で予算要求してごさいます。今後、先程の予定にもごさいましたが、査定を受けて復活要求等でこちらとしても最低ラインのところまで要求はしていきたいと思います。できるだけ予算が付くように努力していきたいと思います。

石塚委員) コンピュータも2年がかりでなかなか実現しないのですが一歩でも進められるようお願いしたいと思います。生沢プールの後の学校プールも来年度の目玉にしたいと思いますので、実現をしていただきたいと思います。これまでの感触を聞かせていただきたいと思います。

子ども育成課長) プールにつきましては、教育委員会から町の方へ要望書を出させていただいております。今、町の方ではスポーツ健康課が中心で町の方のプール検討委員会という会議を持っておりまして、最終的に国府小学校の中にプールを造り、夏休みには開放施設としてプールを生涯スポーツ、レクリエーションとして使うプールを造っていきこう、また、それに避難所になりますので防災機能も備えたようなプールにしていこうという方向付けができております。最終的には検討委員会の結果を政策会議に掛けまして進めていくということで、感触といたしましては、来年度、設計が進む予定と考えてごさいます。新規事業につきましては、総合計画に位置づけるというのがありまして、教育委員会といたしましても手を挙げさせていただいて、総合計画にも新規に追加してごさいます。他にここに載せてあるものに付きましても、総合計画に手を挙げていきますが生沢プールにつきましても新規の事業の中でも優先順位を高くして整備を進めていきたいと考えてごさいます。

委員長) 先生の私用のパソコンが壊れてしまい質問等の呼び出しができなかったということも聞いておりますので、教職員用のコンピュータは必要だと思います。次に生涯学習課、図書館、郷土資料館に移ります。

石塚委員) 生涯学習課関係、サロンドカルチャーの講師の登録が進んでいる事は有り難いです。東京都の江戸川区の事例の話聞いたことがあるのですが、単位制の区民大学を作って30単位をとると卒業で入学、卒業といった区切りを付けていて、これが非常に評判です。将来、実績ができれば町民大学、生涯学習大学できたらと思います。

生涯学習課長) 今まで大磯町がしている生涯学習講座と申しますと、ファミリー教室であったり高齢者教室であったりしておりましたので、講座等の充実ということで町史に関する講座も図書館と連携して進めております。また、新たに「O I S O学び塾」というもので、シルバー世代を対象にした講座を今年は3講座

行う予定でいます。図書館でダイジェスト版の講座も行いましたけれども、大磯の歴史に興味のある方も多く町史刊行の記念の講座ですので、毎年はできませんが「O I S O 学び塾」の中に歴史編やライフプラン編など学び塾を基本にして種類を充実できるような形を考えております。先日、ダイジェスト版の講座で午前と午後で、30名ずつの方が来館して講座を聞かれていきました。大変、興味をお持ちいただいている方が多く、感心して帰られていますので、継続して進めていければと思います。単位制の大学となりますと、実際にある程度受講生の方を確保しなければいけませんので、なかなか小さな町ですと1つの講座で人数を集めることは難しいのですが、そのような感覚を持って少し中心となるような講座をできればと考えております。いろいろな世代の方が、交流を持てるような講座を視野に入れて、サロンドカルチャーも20年経過していますので、シフトをしながら登録されている講師の方の活用を図り、講座を充実させていきたいと考えております。

石塚委員) 今、課長が説明して頂いた形で十分だと思います。町史のダイジェスト版等を教科書にして单元毎に非常に良い講座ができると思います。その辺は十分予算化されていますでしょうか。

生涯学習課長) もともと講師等謝金ということで年間60万円ほど費用を持っています。この中にはサロンドカルチャーで助成金として出す費用もありますし、町が開催している講座の講師等謝金もありますので、サロンドカルチャーへの利用基準を改めておりますので、そういった部分で残りましてお金を上手く活用しながら新規の講座の方に回していくというようにしてございます。総額としては変わりませんが、その配分方法を変えて一般の方が受講できる講座へ少しずつシフトできる形が良いと思います。ある程度費用の方は確保できていると思います。

石塚委員) 是非、「O I S O 学び塾」を拡大、発展させていただければ良いと思います。

岩井委員) 図書館業務ですけれども地方の新聞で前に汚れた本が返却されたりとか、無くなってしまっているという記事を目にしたことがあるのですが、修理をしたり、新しく購入したりしていると書いてありましたけれどもその費用はどれくらい充当されているのでしょうか。

生涯学習課図書館主幹) 最近、湘南新聞で不明本、破損本が多いという話がありました。私どもの方にも取材に来られて、お話をいたしました。大磯町立図書館におきましては、不明本というのは年間100から300冊くらいの間で不明になっているのですが、しばらくすると戻ってくるケースもあります。破損本につきましては、実際に返却時に破損をしている場合には、お子さんが破損されるケースが多いのですが、その場合には弁償という形で同意を得て、同じ本をご購入いただいて図書館へ返していただく形になります。破損に関しましては、その費用は計上しておりません。あと犬がかじってしまったという場合もあります。その場合も弁償しますという形になります。破損が分かっている場合は弁償をしていただきますが、雑誌などで切り抜きがわからない場合が発生しています。こちらの場合につきましては、改めて購入という形ではなく、こちらの雑誌は切り取りがありますという形で表示をして提供しております。

石塚委員) 図書館の予算の項目の中で労働費の件、雇用再生特別基金を利用するということですがけれどもほとんど人件費と思って良いですか。人件費以外にシステムの改善とかに当てられるものもあるのですか。

生涯学習課図書館主幹) こちらの件につきましては、9割方が人件費を見込んでおり

ます。その他には、図書館サービスの充実を図るために講座の開催を、委託事業に含んでおりますので、この開催費用と人件費他になります。

石塚委員) 講座は年に何回くらい。

生涯学習課図書館主幹) 講座につきましては、年に4回、四半期ごとの開催を見込んでおります。

清田委員) 町史のデータ化等あり大変でしょうけれども、どこからでも検索できるというのは大事なことだと思いますので、進めていただけたらと思います。郷土史資料館とも上手く繋がれば良いと思います。

石塚委員) 大磯町子ども読書活動推進計画というのは目玉の1つとしてスタートいたしました。この参加人員とかを教えてください。来年度、第2次計画策定を行うと書いてありますが、今年度1年間やって、来年度の活動の中の目玉はどんなことを考えているのかを聞かせていただきたいと思います。

生涯学習課図書館主幹) 大磯町子ども読書活動推進計画に基づいた事業についてですが、今年度につきましては、以前から行っていた事業もありまして、20年3月に策定した事業を21年度から始めていることになります。お話会、学級招待という事業は継続しておりました。ブックスタートも17年度からスタートしておりましたので、継続して計画の一貫として進めております。22年度第2次計画策定を行ってまいります。事業自体の参加人員を増やししながら、学校との連携を中心に据えて、学校の先生、司書の方との連携の中で、子どもの読書の推進を図り、進めていきたいと考えております。

石塚委員) これは非常に大事なことだと思います。最近、大人も子どもも本離れ、読書離れがあるようですけれども、読書というのは子どもの時に習慣づけることが大事だと思います。その一貫として読書活動推進計画が基本になるだろうと思いますので、是非、これは進めていただきたいと思います。興味を引くような本がないとなかなかなので、それにふさわしい新しい本の購入も積極的に進めて行っていただきたいと思います。

清田委員) 図書館だけではないのですが、学校の方も一緒に取り組んでいただけたらと思います。本を読む習慣を身に付けることは非常に大事なことです。本を読んでいると想像力が高まりますので是非その辺も考慮していただけたらと思います。

石塚委員) 郷土資料館関係ですけれども、今年度の目玉の「伊藤博文展」が非常に皆さん興味を持って頂きました。来年度もこういう特別展というのを、財政難ではありますがどんどんやっていただきたいと思います。

生涯学習課長) 先程、子ども育成課長の方から説明がありましたが、大磯の歴史的文化的な資源を積極的にPRするというので、観光が重点施策として位置づけがされております。また教育委員会の基本方針や点検評価の中でも文化自然を発信する重要拠点ということで郷土資料館が位置づけられておりますから、逆にいうと観光と上手く連携をして、今回も町内の団体と連携を図る上で重要な役割をしていただいておりますから、そういったところを上手く活用しながら郷土資料館の存在意義をPRして重点的な予算の配当をしていただけるようにしていきたいと思います。

岩井委員) 郷土資料館の公用車を購入するというので、運営事務事業のところ公用車の維持管理費がありますが、もし購入できなかった場合を想定していると思いますがどれくらいの額になりますか。

生涯学習課長) 基本的な維持管理費については、新規で車をすぐには購入できないのでそれまで古い車を利用しなければいけません。それに掛かる修繕料や車検代

等の更新するまで必要な経費を一通り載せてあります。実際に予算がついて買えるようになれば不要なものは減額していく形です。

清田委員) 今年度は郷土資料館の設備が壊れたということで資料にも影響しますので、施設を永く維持するためにもメンテナンスが大事になります。ある程度見通しを立てて、予算計上していく必要があると思います。

委員長) 大磯町の重要な文化財が保存されているので、一度失うと二度と戻ってきませんので館の維持にかかることをしっかりしていかないと守れないと思います。これから町への説明が始まり、年内にはほぼ確定するということですので事務局におきましても大磯町の教育のために頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。

その他

子ども育成課長) 次回の定例会につきまは12月16日9時から行いますのでよろしくをお願いします。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成 21 年 12 月 16 日

委 員 長

委員長職務代理者

委 員

委 員
